

第11回

愛知大学 語学教育研究室 公開講演会 開催報告

\ 講演テーマ /

言語の大量消滅？！一言語はなぜ消えるのか、何が問題なのか

2025年10月8日(水) 13:15～14:45 名古屋キャンパス講義棟L903教室

講師：東京外国語大学 副学長・教授 中山 俊秀 氏

今回の講演は、流暢に話せる人はわずか数十人の「ヌートカ語」(カナダ：バンクーバー島の西岸に住むヌートカ族の言語)の基礎的な構造のみならず、人類の生存において、いかに言語の継承が重要であるかというスケールの大きい話へと展開していった内容で、学生・教員ともに心を打ち、言語の重要性について深く考える大変有意義な講演会となりました。



参加者の声

- ☒ 今回の講演を聞いて、言語の消滅は単に言葉がなくなることではなく、その地域の文化やアイデンティティも失われてしまう深刻な問題だと感じました。言語は情報を伝えるだけでなく、人々の考え方や世界の見方を形づくる大切なものだということが印象に残りました。
- ☒ 私たち一人ひとりが、言語の価値や多様性について関心を持ち続けることが、未来の文化を守ることに繋がると感じました。
- ☒ ヌートカ語については特に文法について衝撃を受けました。動詞から話す文法は初めて聞き、習得するのにすごく苦労しそうだと感じました。
- ☒ 言葉が単なる情報伝達の道具ではなく、人と人との関係や社会のあり方そのものを形づくる重要な存在であるということを学びました。
- ☒ ヌートカ語の危機は、言語という枠を超え、文化、歴史、アイデンティティの危機だと感じました。
- ☒ 世界中で3,000以上もの言語が消滅の危機に瀕しており、そのことで各国独自のコミュニティや伝統が喪失している現状は、非常につらいことだと感じました。

など